

特集

# シリーズ《JR問題 ロイズタウン駅

## 話題の新駅効

# を考える⑤

# など 果を査定する



高校生が制作した「Nステーション」のアート作品



▲遠目からも目立つロイズタウン駅

JR北海道のダイヤ改正といえば、列車の減便と無人駅の廃止が恒例化しており、今春も7つの駅が姿を消した。ただ、一方で2つの新駅、「ロイズタウン」と「名寄高校」が誕生するという、久しぶりの明るい話題もあった。両駅の共通点は、前者はロイズふと美工

場への集客増、後者は高校生の利便性向上を目的とした「請願駅」という点である。はたして話題の新駅は、どれほどの効果をもたらすのか――。3月中旬、開業まもない両駅を訪れた。

(フリーライター・内海達志)

## 開発進むロイズタウン駅前

JR北海道が発表した資料によると、7つの駅を廃止することで、年間約1千万円の節減が見込まれるという。その金額の多寡はさておき、今後は極端に利用者が少ない駅を維持したければ、自治体が費用を負担するほか選択肢はなくなるものと思われる。

反対に新駅設置は、新幹線を除けば、請願駅以外の可能性はほぼ

ないだろう。最後に駅が設けられたのは、2002(平成14)年の流山温泉駅である。だが、同駅は温泉施設の閉鎖もあり、今回のダイヤ改正で20年の短い歴史に幕を下ろした。学園都市線に誕生したロイズタウン駅は、その流山温泉駅以来、20年ぶりの新駅ということになる。

1. プン時間(9時)にあわせ札幌発の電車に乗ると、平日とあつてかロイズタウン駅で下車したのは筆者を含め3人だけだった。思わずチョコレートが食べたくなるような、ホームに掲示された大きな広告看板といい、青と白を基調とした、ロイズの人気商品を連想させる遊び心あふれるデザインの駅舎といい、

PR効果は抜群だ。

駅前広場には何もなく、ただっ広い更地で重機だけが忙しく動いていた。駅前エリアの活用計画について、当別町事業推進部事業推進課の高田浩司氏は、「ロータリーのほか、駐車・駐輪場、公衆トイレの整備を行う予定です。また、ふと美工場までの区間に新たに歩道を設置し、広場の緑地スペースではイベント等を想定しています。さらに駅を拠点とした周辺環境を整えるための自動運転(無人走行バス)や、周辺農地を活かしたスマート農業など、新技術の実証実験の場となることも目指しています」と説明する。こうしたプランが実



▲早くも大人気の「ロイズカカオ&チョコレートタウン」

駅を背に、一本道を進んでいくと、正面にロイズの大きな建物が

現すれば、交流人口の増加は間違いなく、町では、当別に興味を持つてくれた人の「定住」にもつなげたいとの青写真を描いている。ちなみに、今回のダイヤ改正では「石狩当別」「石狩太美」の両駅が、それぞれ「当別

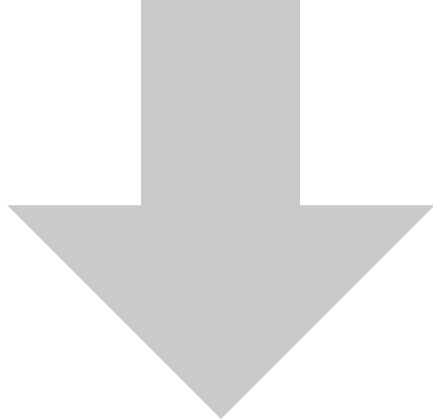
「太美」に改められた。1934(昭和9)年から使われてきた歴史ある駅名だが、「石狩市の駅と誤認する人が多い」ことが改称の理由とのこと。これも「当別町」を広く知ってほしいという気持ちの表れだろう。

## 新たな需要掘り起こしも

みえるが、これは移転前の工場と直売店で、現在は閉鎖されている。さらに歩くと、ほどなく拡張された新工場と直売店などを併設した「ロイズカカオ&チョコレートタウン」の真新しい建物が現れた。駅からは、ゆっくり歩いて7〜8分といったところだろうか。



▲現在の駅前をご覧のとおり



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を  
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから  
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

**TEL 011-644-0101**

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)